

1 ベティ・ムートのバラッド

心優しいベティ・ムートが
ラーウィックへ出航、その地の店へ
手編みのショール、ストッキング、帽子を携えて。

不自由な足で辛抱強いベティは
コロンバイン号の船室の中、
風と船員が上で叫んでいる。 5

訝るベティ、
軋む船の中、上下にうねる海の中
折れた帆柱の下。

闇の中のベティ、海の牢の中、
手許には一切れのビスケット、
慰めの聖句が一節、二節。 10

ベティ、いま亡霊が舵輪を握っている。
船長は、
もはやヒトデや波しぶきと一体となる。
女たちが遠く背後の海岸で哭いている。 15

勇敢なベティ・ムート、彼女は思い出す
神が計画した、他の航海を、
大鳥や鳩と一緒にノアや、
鯨の腹の中のヨナを。 20

何艘もの船が大きく輪を描いて搜索する、男たちが
嵐に向かって破城槌の頭を乱打する。
何も見えない一灰色の浮遊物、冷たい波しぶき。

ベティは口をミルクで湿らす。
そして^{ミュー・エルサレム}天上の都を考える、嵐はもうたくさん。 25
「わたしはほんとうに潮位標や潮だまりが好きだったわ。」
ベティは夢を見る。大洋は一枚の布

クジラ、ニシン、ロブスター、クラゲ、フナノリ、カモメ、
カサガイ、ホシが縫い込まれ
天上の都の壁に掛かっている、
まるでタペストリのよう
サムバラのブルース氏の館の、
波打つ光輝、虫食いのない不滅の織物。 30

美しく信仰深い老女、ベティ・ムート、
亡霊が舵柄を操作していなかった、
天使が狼の群れなす大洋の中コロンバイン号を導いた。 35
ノルウェイの峡湾フィヨルドの人たちが
あなたを見つけ、抱いて火と食べ物でもてなすのだ、いまだに
クローヴァーの甘い香りがする籠を持つあなたを。

(川畑彰訳)